

7. 幼小連携・交流活動

R6年度 幼小連携 全体計画

【ねらい】

◎園と小学校との連携を深めることにより、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る。

○園児と小学生が交流活動を通して、互いに親しみをもつとともに、次のような姿が見られるようにことを期待する。

・園児は小学校への期待や憧れの気持ちをもったり、自分たちの遊びにいかしたりする。

・小学生は園児への思いやりの気持ちをもったり、相手のことを考えながら自分の力を発揮したりする。

○園と小学校の教職員間で、保育参観や授業参観、合同の研修会等をもつことにより、子どもの実態や指導のあり方など互いの教育についての理解を深め、教育活動の改善・充実を図る。

【年間活動計画】

月	交流内容【交流児】	研修計画【教職員】
4月	お見知り遠足 【5年生と幼稚園児】	
5月	交流活動 【1年生と幼稚園児】	第1回 幼小合同研修(全教職員) (架け橋プログラムの意義・カリキュラム確認) 交流活動計画・ふり返り(幼・小1 担任間)
6月		中学校校区ブロック別研修① 第1回 互見保育・互見授業
7月	交流活動 【1年生と幼稚園児】	交流活動計画・ふり返り(幼・小1 担任間)
8月		
9月	運動会合同練習【全校児童】 幼小合同運動会【全校児童】	
10月		第2回 幼小合同研修(全教職員) (互見保育・互見授業・ふり返り・2学期以降の計画)
11月	交流活動 【1年生と幼稚園児】	交流活動計画・ふり返り(幼・小1 担任間) 第2回 互見保育・互見授業 中学校校区ブロック別研修②
12月	交流活動 【5年生と幼稚園児】	交流活動計画・ふり返り(幼・小5 担任間)
1月	交流活動 【1年生と幼稚園児】	交流活動計画・ふり返り(幼・小1 担任間)
2月	入学説明会 【5年生と入学予定児】	第3回 幼小合同研修会(全教職員) (架け橋期カリキュラム検証、交流活動まとめ)
3月		子ども理解の会(全教職員)

R6年度 南部幼小交流活動年間計画

幼稚園のねらい	交流する中で小学生に親しみを持ち、一緒に活動することを楽しむ。
小学校のねらい	交流する中で園児に親しみを持ち、一緒に活動することできる。

月	交流内容 【交流児】	幼稚園のねらい	小学校のねらい
4月	お見知り遠足 【5年生と幼稚園児】	小学生とゲームをして遊んだり、5年生と一緒に手をつないで遠足に行ったりすることを通して、小学生に親しみを感じる。	幼稚園児の自己紹介を聞いたりと一緒に遊ぶ、一緒に手をつないで遠足に行ったりすることを通して、園児に親しみをもつことができる。
5月	よろしくねの会 【1年生と幼稚園児】	1年生や1年生の先生を知り、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。	近くにいる幼稚園児を意識して遊んだりかわったりすることができる。
7月	みんなで七夕飾りをつくろう 【1年生と幼稚園児】	自分で考えたり、小学生と一緒に作ったりすることを楽しみ、きれいな七夕飾りができたことへの達成感を感じる。	一緒に七夕飾りを作って飾ることを通して、共に作ったという達成感を味わうことができる。
9月	運動会合同練習 【全校児童・幼稚園児】 幼小合同運動会 【全校児童・幼稚園児】	小学生と一緒に応援合戦をしたり、互いの競技を応援しあったりすることで、小学生に憧れをもち、意欲的に取り組もうとする。	幼稚園児と応援合戦をしたり、競技を見たり応援したりすることで、頑張りを認め合うことができる。
11月	秋祭りをしよう 【1年生と幼稚園児】	1年生の作った道具で遊ぶ楽しさを味わい、秋の自然物でいろいろな遊びができることに気づく。	秋見つけで集めた材料を使った遊び道具を使って、一緒に遊んだり遊びを工夫したりする。
12月	お楽しみ会をしよう 【5年生と幼稚園児】	5年生と遊んだり話したりすることを通して、親しみや憧れの気持ちをもつ。	幼稚園児と遊んだり話したりすることを通して、関わりを深め思いやりの気持ちをもつことができる。
1月	風をつくってあそぼう 【1年生と幼稚園児】	自分で考えたり、互いに手伝ったりして風を作り、風が空にあがったことへの達成感を感じる。	グループでお互いに手伝ったり、話し合ったりしながら風を作り、風を飛ばすことができる。
2月	学校って どんなところ？ 【5年生と入学予定児】	5年生と一緒に遊んだり、学校探検をしたりすることで、小学生になることへの期待や小学校生活への意欲を高める。	入学予定児と一緒に遊んだり、学校探検をしたりすることで、最高学年としての意識や来年度への意欲をもつことができる。

＜留意事項＞

*事前事後の打ち合わせを行い、ねらいの確認や振り返り等を行うことで次の交流にいかす。

*特別な配慮を必要とする子どもへの適切な支援について共通理解を図る。

活動名	「あきあそびまつり」をしよう！		2023年12月20日(水) 1年教室
	幼稚園児		1年生
ねらい	(共通):◎一緒に活動することに意欲を持ち、秋の自然物を使ったあそびを楽しむ。		
	◎交流する中で1年生に親しみをもち、一緒に活動することを楽しむ。	◎交流する中で幼稚園児に親しみをもち、一緒に活動することを楽しむ。	
教育課程上のつながり	【Ⅲ期(9～12月)の内容】: ○小学生と触れ合い、親しを感じる。 ○季節の変化に気づき、収穫を喜んだり、自然物を使っていろいろな遊びをしたりする。		
この活動で育てたい姿	◆自分たちが考えたあそび以外にも、秋の自然物でいろいろなあそびができることに気づく。【知・技の基礎】 ◆1年生の話を聞き、ルールを守ったり、時には自分の気持ちを調整したりしながらあそびを楽しむ。【思・判・表の基礎】 ◆意欲的に遊ぶ中で、1年生に親しみや憧れの気持ちをもつ。【学び・人間性等】	◆みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片づけ、掃除、整理整頓をしている。【知・技】 ◆園児の様子を意識して、伝わる方法や言葉を選んでいく。【思・判・表】 ◆おもちゃの楽しさを伝えたいという思いをもち、すすんで触れ合い交流しようとしている。【主体的】	1学期の内容:「きせつと なかよし あき」 『生活』:11月
時間	幼稚園児への援助	子どもの姿	1年生への援助
はじめの会をする(ドリームホール)【担当:釘宮】			
9:35	●1年生と一緒に楽しく過ごすことを伝え、安心して活動に参加できるようにする。 ●靴や荷物を置く場所を伝える。 (靴は靴箱下段、荷物はドリームホールのベンチ側に置く)	○ステージに向かって並ぶ。 ○元気に挨拶をする。 ○今日の活動についての話を聞く。	●「幼稚園児に楽しんでもらう」という活動のめあての確認をする。 ●それぞれのグループごとに遊びの紹介をする。
秋遊び祭りを行う(1年教室、ワークスペース、学習室)【担当:釘宮】			
【秋の遊び祭りの場】 ○6つのグループ ①どんぐりごま ②どんぐり迷路 ③どんぐり人形ペンダント ④どんぐり滑り台 ⑤秋のお弁当 ⑥つかみどり ⑦コロコロボックス ⑧キャッチぱっくり ⑨どんぐりコプター に分かれて順番にまわる。 ○グループで簡単に遊びのルールを聞く。 ○遊ぶ。 ○前半グループ後半グループに分かれて遊ぶ。その間、何度も遊ぶ。		【それぞれのグループのルール】 ①どんぐりごま→バトル場で友だちと闘うことができる。 ②どんぐり迷路→スタートからゴールに行けた人の勝ち ③どんぐり人形・ペンダント →買いに来た人にわたす。 ④どんぐり滑り台→一番速くまで転がったひとが勝ち。 ⑤あきのお弁当 →買いにきてくれた人にわたす。 ⑥つかみどり→たくさんつかめた人の勝ち。 ⑦コロコロボックス→どんぐりを入れて、下までたどりついたらゴール。 ⑧キャッチぱっくり→足で踏んでつまぱっくりをキャッチできたらオケイ。 ⑨どんぐりコプター →3回投げて点が高い人の勝ち 今回は、前半後半に分かれてお話をします。片方のグループは一緒に遊びます。遊び場に行ったら、カードにシールを貼ってもらおう。	
9:45	●緊張や不安でできない子には、教師が寄り添い、ルールにはこだわらずさわりたり遊んだりできるようにする。 ●様子を見守り、必要に応じて声をかけるようにする。	○ルールを説明する。 ○遊ぶ。 ○自由に何度もチャレンジする。	●ルールを説明する。場合によっては、やって見せる。 ●わかったかを確認して一緒に遊ぶ。 ●ルールはあるが、あまりこだわらず楽しんでもらうことを心がけるように促す。 ●幼稚園生に声をかける姿を褒めて認めるとともに、幼稚園児が困っていたら、教えてあげるように促す。

10:00	●ドリームホールで水分補給と休憩をとるように伝える。	○前半が終わったら、休憩を入れる。	●教室で水分補給と休憩をとるように伝える。
10:05	●すすんで遊びに取り組む姿を褒めて認め、気持ちよさを味わえるようにする。 ●教師を頼ろうとする子どもには、友だちの遊び方を見ることを伝え、どうしたらいいかを一緒に考えるようにする。	○幼稚園生→また遊んでいいことを伝える。 小学生→後半グループと交代する。 ○見本やルールを聞きながら、自分たちで遊ぶ。 ○友だち同士で「こうするといよ」と話しながら遊びを楽しむ。	●後半グループと交代する。 ●すすんで幼稚園生とかかわる姿を褒めて認め、気持ちよさを味わえるようにする。 ●困っている幼稚園児がいたら、「どうしたの」と聞き、何に困っているのかを言語化させる。そして教師に伝えたり助けをしたりする。
振り返りをする。(ドリームホール) 【担当:釘宮・吉野】			
10:20	●子どもの言葉に共感するとともに、うまく話せない時は教師が思いを代弁して伝えるようにする。 ●また小学校にくることを伝え、次回の交流に期待をもてるようにする。	○感想を話したい人は前に並び、楽しかったことや気づいたことなどを話す。(1年生→幼稚園児) ○話している人の目を見て話を聞く。また、話が終わったら拍手をする。 ○次回の交流に期待を持つ。	●子どもの言葉に共感するとともに、うまく話せないときは代弁して伝えるようにする。 ●思ったこと、伝え合いでよかったことの2つの振り返りをするをつたえる。 ●入学説明会で授業を見に来ることや3学期にも交流会があることを伝え、次回に期待をもてるようにする。
10:35		○さよならをする。 ○見送り	

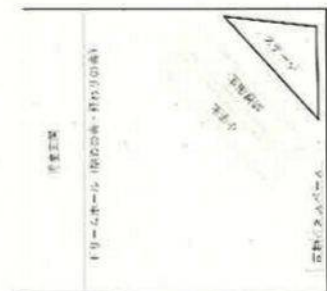
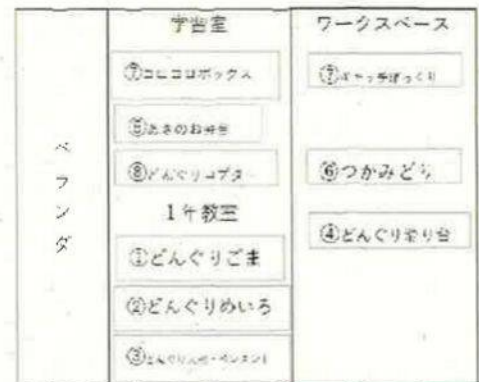
【環境設定】

「幼稚園生が用意する物」

- シューズ
- 名札
- 水筒
- あそびのカード

「小学生が用意する物」

- シューズ
- 名札
- 水筒
- 遊びの道具→設置済み



事前に計画を一緒に立てる

南部幼稚園・南部小学校交流活動計画

凧をつくってあそぼう！

(幼小交流活動)

ねらい
・教育課程上のつながり
・この活動で育てたい姿
等も一緒に確認

活動名	「凧をつくってあそぼう！」		1月26日(木)
ねらい	共通	①一緒に活動することに意欲を持ち、凧づくりや凧あげを楽しむ。	
幼児園児	1年生	②交流する中で1年生に親しみをもち、一緒に活動することを楽しむ。	
教育課程上のつながり	幼児園児	【IV期(1〜3月)の内容】：日本の伝統文化に親しみ、生活の中に取り入れて遊ぶ。目的に向かって取り組む活動(1月)：「凧作り」(お正月あそび)	
	1年生	【生活科】：ききと なかよし らや「きんぎょ あそぼう」(1〜2月)	
この活動で育てたい姿	幼児園児	●自分なりに考えたり、友だちや1年生とやり方を教え合ったりしながら、凧作りと凧あげを楽しむ。 ●「凧あげをして遊ぶ」という共通の目的をもち、気づいたことを伝え合ったり、一緒に作ったりしながら、友だちや1年生とのかけがえのない時間を過ごす。 ●友だちや1年生と一緒に遊ぶ中で、思ったことや気づいたことを自分なりの言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりする楽しさを感じる。	
	1年生	●凧の動きを予想したり、確かめたり、見直したりしながら、凧を飛ばす楽しさを感じたりする。 ●「一緒に凧をあそぼう」というめあてをもち、幼児園児の様子を気にかけながらやり方を教えたり手伝ったりする。 ●作ったり遊んだりする中で、思ったことや気づいたことを友だちや幼児園児に伝えたり、話を聞いたりする。	
時間	幼児園児への援助	子どもの姿	1年生への援助
9:15	はじめの会をする。(ドリームホール) 【担当：小学校】		
	●1年生と一緒に楽しく過ごすことを伝え、安心して活動に参加できるようにする。 ●靴や荷物を置く場所を伝える。(靴は靴箱下段、荷物はドリームホールのベンチ横に置く。)	●ステージに向かって並び、元気よく挨拶をする。 ○今日の活動についての話を聞き、興味を持つ。	●幼児園児と一緒に楽しく過ごすことを伝え、安心して活動に参加できるようにする。
9:20	凧の作り方について話を聞く。(ワークスペース) 【担当：幼稚園】		
	【凧の作り方】 ① 絵を描いたビニールに、セロハンテープで竹ひごを2本つける。 ② 凧の左右に、小さい竹ヒゴをつけ、セロハンテープで固定し、つまようじで穴を開ける。 ③ 左右の穴に凧糸を通して結ぶ。 ④ 凧につけた凧糸の中央部分と、持ち手のついた凧糸を結び、(教師が手伝う！)		
	●大きな見本を提示して説明すること、見通しが持てるようにする。	●見本を見ながら説明を聞き、出来上がった凧をイメージする。	●大きな見本を提示して説明すること、見通しが持てるようにする。
9:30	グループごとに凧作りをする。(1年教室、ワークスペース、学習室) 【担当：小学校・幼稚園】		
	●各グループに、見本を書き、見たり聞いたりしながら作ることが出来るようにする。 ●分からないことがあったら、見本を見ながら一緒に考えたり、友だちや小学生にアドバイスをもらうように促す。 ●子どもの姿に気づき、どうしてうまくいかないか、手を添えたり一緒に作ったりする。 ●最後に凧糸同士を結び付けるところは、教師が援助する。	●各グループに分け、グループごとに凧作りをする。 ○見本を見ながら、自分なりに考えたり、友だち同士で「こうする」といって一緒に作ったりしながら作る。 ○分からないことがあったら、教師や小学生にアドバイスをもらう。(幼稚園児) ○組んでいる幼児園児に声をかけ、アドバイスをしたり手伝ったりする。(1年生) ○最後に凧糸同士を結び付けるところは教師の手伝いしてもらう。	●各グループに見本を書き、見たり聞いたりしながら作ることが出来るようにする。 ●分からないことがあったら、見本を見ながら一緒に考えたり、友だちや小学生にアドバイスをもらうように促す。 ●幼児園児に声をかけ、アドバイスをしてあげたり、友だちや教師に援助を求める。 ●凧糸同士を結び付けるところは、教師が援助する。
10:10	休憩をする。(1年教室、ワークスペース、学習室) 【担当：幼稚園】		
	●ドリームホールで水分補給と休憩をとるように伝える。	●トイレに行ったり、水分補給をしに行く。	●教室で水分補給と休憩をとるように伝える。

10:20	凧あげの仕方について話を聞く。(ワークスペース) 【担当：幼稚園】		
	【凧あげの仕方】 ① お友だちと距離をあけ、ぶつからないように気を付ける。 ② 凧があれば、走らなくてもあがることを伝える。 ③ 凧糸は右手と左手を使ってしっかり持ち、手を離さないようにする。(持ち方・引き方を確認する。) ④ 凧が地面に落ちた時は、凧を引っ張らずに、自分が動いて凧糸を巻くようにする。		
	●見本を提示しながら説明すること、見通しが持てるようにする。	●見本を見ながら説明を聞き、凧あげの仕方を自分なりにイメージする。	●見本を提示しながら説明すること、見通しが持てるようにする。
10:25	凧あげをする。(校庭) 【担当：小学校・幼稚園】		
	●自分たちで考えて遊ぶ姿を見守り、必要に応じて声をかけるようにする。 ●子どもの言葉に共感すること、思いを伝え、気持ちよさを味わえるようにする。 ●様子を見守り、うまくあがらない時や凧糸が絡まった時は、必要に応じて援助・援助を求める。	●自分なりに上ったり、友だち同士で気づいたことを伝え合ったりしながら、凧あげを楽しむ。 ○凧がうまくあがったことを喜び、友だちや教師に知らせる。 ○思うように凧があがらなかったり、糸が絡まった時には、友だちや教師に援助を求める。	●自分たちで考えて遊ぶ姿を見守り、必要に応じて声をかけるようにする。 ●子どもと共感すること、思いを伝え、気持ちよさを味わえるようにする。 ●様子を見守り、うまくあがらない時や凧糸が絡まった時は、必要に応じて援助・援助を求める。
10:50	凧の遊びをする。(ドリームホール) 【担当：小学校】		
	●子どもの言葉に共感するとともに、うまくあがらない時は教師が思いを代弁して伝えるようにする。 ●小学生の話し方に敬意を払うように促す。 ●楽しかった交流会の思い出を共有し、就学へ期待を寄せるようにする。	●感想を話したい人は前に並び、楽しかったことや気づいたことなどを、みんなの前で話す。(1年生→幼稚園児) ○話している人の目を見て話を聞く。また、話が終わった後手を打つ。 ○1年間の交流会で楽しかったことを伝え合う。 ○さようならをする。	●子どもの言葉に共感するとともに、自分の思いを話す姿を褒めて認め、気持ちよさを味わえるようにする。 ●思ったこと、伝え合ひで楽しかったことの2つの振り返りをする。伝える。 ●楽しかった交流会の思い出を共有し、通級することへの期待を寄せるようにする。
11:00			

「幼稚園児が用意する物」
○シューズ
○運動帽子
○名札
○水筒
○絵を描いた凧
(両端に両面テープをつける)

「小学生が用意する物」
○シューズ
○運動帽子
○名札
○水筒
○絵を描いた凧
(両端に両面テープをつける)

「教師が用意する物」
○凧糸(幼・小)
○竹ひご(幼)
○つまようじ(幼)
○セロハンテープ(幼・小)
○凧の見本(幼)
○両面テープ(幼)

【環境設定】



事後の話し合いをもち、
次の活動へつなげられるようにする

どんな子どもの姿が見られたか

子どもの姿から見取る①
「育てたい姿は見られたか？」

写真や動画を
手がかりに

活動名	「風をつくってあそぼう！」	1月26日(木)
ねらい	共通	◎一緒に活動することに意欲を持ち、風つくりや風あげを楽しむ。
	幼稚園児 1年生	◎交流する中で1年生に親しみをもち、一緒に活動することを楽しむ。
教育課程上のつながり	幼稚園児	【IV期(1～3月)の内容】…日本の伝統文化に親しみ、生活の中に取り入れて遊ぶ…目的に向かって取り組む活動(1月)「風作り」(お正月あそび)
	1年生	【生活科】「きせつと なかよし ふゆ」…「きたかぜと あそぼう」(1～2月)
この活動で育てたい姿	幼稚園児	●自分なりに考えたり、友だちや1年生とやり方を教え合ったりしながら、風作りと風あげを楽しむ。 ●「風あげをして遊ぶ」という共通の目的をもち、気づいたことを伝え合ったり、一緒に作ったりしながら、友だちや1年生とのかかわりを楽しむ。 ●友だちや1年生と一緒に遊ぶ中で、思ったことや気づいたことを自分なりの言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりする楽しさを味わう。
	1年生	●風の動きを予想したり、確かめたり、見直したりしながら、風を粘り強く作ったり遊んだりする。 ●「一緒に風であそぶ」というめあてをもち、幼稚園児の様子を気かけながら作り方を教えたり手伝ったりする。 ●作ったり遊んだりする中で、思ったことや気づいたことを友だちや幼稚園児に伝えたり、話を聞いたりする。

子どもの姿から見取る②
「ねらいはどうだったか？」

改善点や今後どうするか

「風をつくってあそぼう！」

事後の話し合い【振り返りと今後に向けて】

子どもの姿	園児	○1年生の姿を見たり、友だち同士で作り方を話したりしながら、自分なりに何とかして作ろうとする姿が見られた。 ○セロハンテープを交代で切ったり、貼る時に押さえてあげたりして、1年生や友だちと協力して作る姿が見られた。 ○昨年と違って、見本を見ながら作るのではなく、友だちと話し合って作る姿が多かった。 ○風の形を見て向きを考えたり、竹ひごやセロハンテープの数を数えて確認したりしながら作る姿が見られた。 ○風あげの時に、グラウンドは泥が跳ねるので、コンクリートのところでやってみるなど、自分たちなりに考えて遊んでいた。 ○風が吹いてきたことを伝えるなど、1年生や園児同士で声をかけあって風あげを楽しんでいた。 ○約束を守って風あげをしていたので、上手にあげている子どもが多かった。また、風系が絡まってしまふ姿が昨年よりも少なかった。
	1年生	○「先生ここ踏まないで教えてください」と自分から頼んだり、自分で試みようとする姿が見られた。 ○1年生に穴の開け場所を教える園児の姿を見て、「幼稚園生のほうがすごいね」と感じていた。 ○「私の隣に座ってね」と同じ班にきた園児に声をかけて隣に座らせて、作業の途中途中で園児に目をやっていた。 ○園児のそばに寄り添い、「ひごをもっとあげようか」と声をかけて持ってあげていた。 ○ひごをつけるときのテープの数が合っているかなと「1、2、3、4、5」と一緒に数えて確かめていた。
子どもの姿から見取ったこと	園児	☆主として見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」…『自立心』『言葉による伝え合い』『思考力の芽生え』『社会生活のかかわり』『数・図形、格闘や文字などへの関心・感覚』 ○【知識・技能の基礎】…保育者の話をよく聞いたり、1年生や友だちの姿を見たりすることで、風の作り方やあげ方が分かり、自分なりにやってみる姿が見られた。 ○【思考力・判断力・表現力の基礎】…自分で考えるだけでなく、1年生や友だちと話し合ったり、教え合ったりしながら楽しんでいた。 ○【学びに向かう力・人間性等】…どの子も風つくりや風あげに興味をもち、意欲的に遊んでいた。
	1年生	☆幼児教育からつながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」…『自立心』『言葉による伝え合い』『社会生活のかかわり』 ○「風が吹いてくると「いまだ！」と駆け出す子がいた。風と風の関係に気付いていた。また、風が吹くと風があがるところを見て、「なんにもしなくてもあがるんだよ」と話して楽しんでいた。 ○【思考力・判断力・表現力】…困ったときには、「教えてください」と言いきたり、園児の様子を見ながら作ってみたい粘り強く風を作る姿が見られた。園児の様子を見ながら、手を貸すことができた。 ○【学びに向かう力・人間性等】…最後に風を飛ばすことを楽しみにして、最後まで風を飛ばした。
「ねらい」について	園児	○交流会も4回目になり、振り返りでは「小学生の〇〇くんが教えてくれてうれしかった！」と具体的に1年生の名前を出す姿が見られ、かかわりが深まってきたことが伺える。 ○さよならをする時に小学生が「帰って来ようよ」と言ってくれたことが嬉しくて、「はやく1年生になりたい」と就学に期待をもつ姿が見られた。
	1年生	○すぐそばにいる園児のことを気にかける子が多かった。全体の園児から個人の園児に目が向くようになった。
今後に向けて	幼稚園	○各グループに置いている見本も、テープの位置が分かるように色を覚えておきたい。(→来年度に向け修正済み) ○風ひごの位置は分かりずれていてもあがるのが分かったので、子どもの主体性を大切にしたい。
	小学校	○風の見本をよく見ることを事前に伝えておく。教師に頼ることもあったので、もう少し見本を参考にできるように意識させたい。 ○来年度も、年4回の交流(5月、6月、10～11月、1月)で行いたい。 ○次年度の計画が他の方にも伝わるように教育課程に掲載できるようにしておく。



「1年生やさしかったね。」
「僕も棒のところは、自分でできたよ。」



「ほら、見て!見て!あがったよ!」



一緒にやってみよう



返します。そして、子ども同士で教え合う姿を認めたり、見守ったりしています。子どもだけではどうしても難しいときは、傍に行き手伝います。

1年生のA児は、自分の風は竹ひごの一本をテープで付け、もう一本はビニールの上に置いたままにしながら、テープを貼るのに手間取っている隣の園児Bを見ています。そして、「どっちからする?」と声をかけ、そっと手を添えます。竹ひごの付け方がわかったB児は、自分でテープを貼り終わると、貼ったところを指で押さえながら、「1、2、3、4、5」と数え、5箇所貼ったことを確かめると、うなずきました。続けて、自分で縦にテープを貼る次の作業を終えました。でも、その後のつまようじでビニールの左右に穴をあけ、そこに風系を通す作業になると、なかなかできません。それをじっと見ていたA児は、「穴を通すの難しいね」と、一緒に始めました。B児も手でビニールを押さえています。その後、やっと2か所に穴をあけ、そこに糸が通る、共同作業が終わりしました。笑顔で「やっとできる」とつぶやくと、A児は自分の風作りに戻りました。

全員の風ができ上がると、外での風あげが始まりました。前日に降った雪の影響で、地面は緩んでいましたが、子どもたちは、自分で作った風を手に、「ほら、見て!見て!あがったよ!」「こんな高くあがったよ!」と言いながら、校庭を走り回りました。

終わりの会では、1年生も園児も話したい数人の子どもが前に出て、感想を発表しました。その後、それぞれ、教室と園に戻って、振り返りをしました。

1年生の振り返りの場では、「風の棒を支えた」「糸を通すのを手伝った」「幼稚園生が困っているところに気付いて教えた」「僕のの後に教えた」「幼稚園生が近くて風をあげていたから、絡まらないように違うところでしたよ」などと感想が出されました。

園での振り返りの場では、「風があがって楽しかった」「走ったら、風があがった!」と、風あげについての感想がたくさん出されました。保育者は、「風あげが楽しかったんだね。じゃあ、作る時はどうだった?」と問いかけます。「1年生に教えてもらってうれしかった」「ひものところが難しかったから、手伝ってもらった」など、子どもたちは口々に言いました。「1年生ってやさしいね。」という保育者に、「うん!やさしかった!」と応えます。「穴をあけるのが1年生は上手だった」「そうそう、1年生は上手だった」と他の子どもたちも話します。「本当に1年生は上手だったね」と言う保育者に、「でも、棒のところは自分でできたよ」「1年生のを手伝ったよ」と数人の子どもが話します。保育者も、「そうだね。みんなも先生のお話をよく聞いて上手に作っていたよね」と認めます。その後、「また、風あげしたいね」とみんなで話し、翌日から風あげを楽しむ姿が見られました。

この日で今年の交流会(全3回)は終わりです。来年は、今日のことを思い出して、今度は1年生になった子どもたちが、園児に寄り添う姿が目に見えます。

* *
は、「自立心」につながる1年生の姿
は、「社会生活とのかかわり」につながる1年生の姿

自立心・社会生活とのかかわり

保育者や教師の援助・環境構成のポイント

- ・互いのねらいや留意点等を共有したり、今後や来年度の見通しをもったりできるように、幼小の教職員同士で、事前・事後の話し合いをもつ(別添『南部幼稚園・南部小学校交流活動計画』参照)
- ・安全に作業ができるように十分な広さのあるスペースを確保
- ・風を作成する見通しがもてるように、見本を提示し、作成の手順を確認できるようにする
- ・子どもたちの目的が実現できるように、また、子ども同士で考え合ったり、教え合ったりできるように、保育者や教師は、見守る、様子を見ながら言葉をかける、手伝うなどする
- ・思いや気付きが共有できるように、幼小それぞれでも、振り返りの場を設ける

社会生活との関わり

1年生や他の園児と触れ合う中で、共に活動する楽しさを味わっている。また、次の人が使いやすいようにテープの切り口の向きを変えて渡す、そっと手を添える、「穴を通すの難しいね」と言葉をかけるなど、相手の気持ちを考え、関わる1年生の行動から、そのよさに気付く、うれしさや親しみを感じるとともに、自分もこうなりたいという憧れの気持ちをもっていると思われる。

このような体験が、相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しむ姿につながっていくと考える。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿とは？」

2023. 3. 20 大分県教育委員会



「どっちからする？」



話をよく聞いて、自分で作るぞ！

CASE 41

5歳児・1年生

「凧をつくってあそぼう！」

(幼小交流活動)

協力園・校

竹田市立南部幼稚園・
竹田市立南部小学校

(これまでの経緯)

12月。幼稚園では、『お正月』の歌をうたったり、『10ぴきのかえるのおしようが』の絵本の読み聞かせをしたりする中で、「凧あげをしたいな」という思いが出され、「3学期になったら凧を作って凧あげをしようね」と話していました。一方、1年生も生活科の「きせつ」となおよし「ふゆ」(きたかぜとあそぼう)で凧あげをしたいと話合っていました。園で凧を作った経験のある子どもたちも多く、自分たちで凧を作りたいと申し出ました。「幼稚園生も凧を作るんだって」と聞いた1年生は、「教えてあげたいな」「一緒に作りたいな」という思いをもち、園児と1年生で一緒に凧を作った、あがることになりました。どちらも、交流会の日までに、凧の材料のビニールの色を選び、そこに、自分の好きな絵を描いて準備をしています。

1月。交流会の日。小学校のホールではじめの会が終わると、1年生教室前のワークスペースに移動しました。子どもたちの前には、凧の形をした大きなビニールが見本としてボードに貼られています。竹ひごを手にした保育者(以下幼稚園教員を保育者、小学校教員を教師と記載)から、凧の作り方について、説明が始まりました。子どもたちは、保育者と見本を見ながら、よく話を聞いています。保育者は、竹ひごの付け方を説明しながら、「ここは、友だちが手伝うといいかもね」と言葉を付け加えます。また、セロハンテープを貼る場面では、「何個付いてる？」と問いかけ、子どもたちも一緒に「1!2!3個!」と数えます。「まだまだグラグラするから、あと2個付けます」と保育者。続けて「全部で何個？」と聞くと、子どもたちから、「5個!」と答えが返ってきました。「今度はテープを」と言いかけると、数人の1年生が、「縦に付ける」「前にしたことある」と、声を上げました。保育者は、「よく覚えてるね。そう、縦に付けます」と説明を続けます。ひもの付け方を説明する場面でも、「穴をあける」「つまようじのとがった方であける」「糸を通す」と1年生が発言し、「わかる人は教えてあげてね。見本も置いてあるからね」と、保育者は皆に呼びかけました。

説明が終わると、子どもたちはそれぞれのグループの場所に移動しました。1年生は、「教え合うために、グループにした方がいい」「1年生だけで固まらず、幼稚園生の間に入った方が教えやすい」などと、事前に話し合っており、園児と1年生が交互にすわり、円になって凧作りが始まりました。

作っている途中で、「テープ回してよ」という声がありました。それを聞いた1年生は、順番を待つ次の人にテープの切り口を向けて回します。続けて、園児が切り、同様に切り口を次の人に向けました。「1、2、3、4、あと一個」と数えながら、テープを5つ、まとめて切っている子どももいます。

「できない。どうしたらいい?」「先生、手伝って!」と言う声が聞こえると、様子を見ながら、教師や保育者は、「見本を見てごらん。」「お友達に聞いてごらん。」「と一度は

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 「10の姿」

数量・図形への
関心・感覚

協同性

言葉による
伝え合い

自立心

社会生活との関わり

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動できるようになる。

事例から見られる10の育ち

自立心

保育者や教師の話、自分の知っていることを伝えようとする1年生の発言をよく聞き、できることは自分の力で、行い、凧を作り上げようとしている。また、難しいときには、自分から、「どうしたらいい?」「手伝って」と伝え、1年生や友達の力を借りたり励まされたりしながら、難しいことでも自分の力でやってみようとして試みている。そして、自分で作り上げた凧があがったことにうれしさと満足感を感じている。このような体験が、小学校以降の自分でできることは自分でしようとする積極的な取り組みに、わからないことや難しいことは、教師や友達に聞きながら粘り強く取り組みたりする姿につながっていくと思われる。

事例から見られる0の育ち

後の話し合いに、県幼児教育スーパーパイザーが参加し、作成したものです。

(～竹田市立南部幼稚園)

③「協



「カエルこ

クラスみんなでカエル
イメージや願いを共
合い、工夫したり協
(令和5年度はカエル
屋さんごっこにまで)

《小学校
学級での集団活
動的に向かって友だ
姿につなが



⑧「数量や図形、
関係」

「お正月あそ
友だちと考えを出し合
カルタを作って遊ぶこ
みます。そして、楽しく
必要性に気づき、興味

《小学校
学習に関心をも
伴った理解や、学ん
中で活用する態

「つながり」シート

令和5年度の子どもの姿より～)

令和6年5月発行

*毎年発行、保護者会で配付、小学校や地域の幼児教育施設と共有

現力等の基礎)・「学びに向かう力、人間性等」)を育むことが求められています。この資質・能力が育まれると、「幼児
③社会生活との関わり／④思考力の芽生え／⑤自然との関わり・生命尊重／⑥数量や図形、標識や文字などへ
な教育活動を展開し、遊びを通した学びを小学校での生活や学習へとつなげています。

「社会性」



「ごっこ」(6月)

箱になりきって遊ぶ中で、互いに考えを出し合ったりして楽しめます。お家づくりからお店まで展開していきました。)

「では…」

運動の中で、共通の目
ちと協力し学び合っ
ります。

④「道徳性・規範意識の芽生え」



「運動会ごっこ」(9月～10月)

幼小合同運動会の経験をもとに、クラスみんな
で相談してやりたい競技を決めます。友だちと
協力して遊びをすすめる中で、きまりの必要性
に気づき、自分たちでルールを作り、守りなが
らゲーム遊びを楽しみます。

《小学校では…》

相手の事も考えて自分の気持ちや
行動を調整し、学校生活を楽しく
過ごすことにつながります。

⑤「社会生活との関わり」



「秋のお店屋さんごっこ」(11月)

クラスみんなでやりたいお店を相談し、秋の
自然物を使って商品や看板など必要なものを
作ります。そして、本物のお店屋さんの様子を
自分たちなりに再現しながら、お店屋さん
とお客さんになって、やりとりを楽しみます。

《小学校では…》

自分が関心を持った情報を積極的
に取り入れ、学びを深めることにつな
がります。

「標識や文字などへの 関心・感覚」



「ごっこ」(1月～2月)

い、一緒にすごろくや
とで、文字や数字に親し
遊ぶ中で、文字や数字の
を持つようになります。

「では…」

て取り組み、実感を
だことを日常生活の
につな갑니다。

⑨「言葉による伝え合い」



「振り返り」(毎日)

遊びの中で楽しかったことや困ったことを自分
なりの言葉で伝え合い、クラスみんなで思いを共
有することで、新しい内容を取り入れたり、きま
りを作ったりして、遊びをより発展させて楽しむ
(あそび込む)ことが出来るようにしています。

《小学校では…》

友だちと互いの考えを伝え合い、
受け止めたり認め合ったりしながら
学びを深めることにつながります。

⑩「豊かな感性と表現」



「表現あそび」(11月～12月)

劇のセリフや動き、リズムの隊形やポーズなど、
自分たちで考えを出し合い、友だちと一緒に創
りあげていくことを楽しみます。12月の発表会
では、表現あそびをお家の人にも観てもらい、
さらに達成感を味わいます。

《小学校では…》

音楽や造形、身体を使った学習など、
感性を働かせ、表現することを楽しむ
活動につながります。

おわりに

園や小学校の代表、行政関係者、大学教授、保護者などが集まり、架け橋期のカリキュラム開発会議を通じて取組を検証した結果、それぞれの意見から幼保小接続の課題や解決策が見出された。これらの意見は、今後の取組の方向性を示す光である。引き続き立場を越えて共に研究を進めていく。

カリキュラム開発会議委員～3年間の取組を振り返って～

当初事業説明を受けた時は、まったく理解ができず、保護者には関係のない話ではないのかと思っていたが、会議に参加していくことで事業の趣旨や目的、子どもたちの目指す姿が理解でき、先生方だけでなく、保護者の理解・協力も必要だと感じました。

このカリキュラムがスタンダードになるまでは、先生方、特に一年生の担任の先生の負担は多くなるのではと感じます。幼保の学び、それを踏まえての小学校での教育。今後も幼保小の交流、先生方も含めて継続し、子どもたちに係る全ての人達が協力していければと思います。（保護者）

幼保小架け橋プログラムに参加して幼児・児童に対する意識が変わりました。入学時の児童の発言や行動を「こうしなければ」という教師側の指導ではなく「どうしたい?」と児童主体に考えられるようになりました。カリキュラムを作成する中で、幼児期の育ちを生かす難しさ、そして大切さを感じました。またこれからも、校種を跨ぐ取組のため、市教委の支援も欠かせないと思います。今後も、この取組が幼保小中一貫と言われるような竹田市の教育の礎になる事を期待しています。（小学校）

幼児教育保育施設で子どもを預かった時から連携は始まっている。基本的な生活習慣から始まり。様々な体験をすることが、それ以降の学びに向かう力の土台に繋がっていく。一人ひとりの子どもに目を向けて寄り添い、支えていくことを考えていながら、架け橋期の子どもたちの姿について幼保小の立場を超えて話し合うことが何より大切だと思う。3年間のモデル地域としての取組は終わるが、合同研修会などは引き続き開催して、みんなで学ぶ機会を作ってほしい。卒園児の小学校での様子なども聞いて、自園の保育や教育についてもふりかえりたい（幼児教育施設）

1年目はカリキュラムを作成する事が、目的と考える発言が散見されたが、年度を重ね、子どもの学びを円滑に接続する事が、目的であるという事が浸透してきていると感じる。それを支えたのが、合同研修会だった。担当者だけでなく、多くの職員の参加を促したのが、効果的だったのではないだろうか。2年目からは、各校区で合同研修会が企画・運営されはじめ、持続的な取組への布石となっており、これをより自律的なものへとすることが大事だと考える。（小学校）

保育所勤務三十年以上の経験の中、小学校第一学年の担任の先生が、一年生の行動は予想を超えることが多く、捉え難いと思っていたことに驚いたことがあります。

就学前のこどもたちは、自分の始末ができ、排泄、会話等、お手伝いも上手です。一説によると3歳で80%人間形成ができるとも聞いています。就学児前のこどもを知ってもらうために、幼保小の架け橋プログラムで連携を進め、もっともっと、こどものチカラをいろいろな分野から引き出していけるように活動していけたらと思います。（幼児教育施設）

本プログラムを通し、十人の年長児を対象に運動や学習の基礎となるバランス能力の変化に有意差が見られる成果を得た。しかし、課題として、数名の児童に対しては効果の低さが見られたため、全ての児童に有効とはいえない結果となった。しかしながら、幼保小時期に医学的な知見に基づき運動を行うことは、子ども達に良い変化を与えることが実感できた。（医療関係者）

3年間を振り返って、質の高い専門的支援ができたか不安ですが、私にとっては良い経験であり、子どもたちの成長に携わることができ、嬉しく思います。一言でいうと、「楽しかった」です。この活動は、専門家が幼保小に入るだけでは前に進みません。先生方の協力があってこそ、子どもたちの成長につながる活動だと思います。3年前から比較すると、先生方が専門的な視点で子どもの話をする事が増え、子どもの成長だけでなく、先生方の吸収力の高さにも驚きました。ご協力にとっても感謝しています。今後も継続して、このような活動ができたらと思うと同時に、必要性も感じています。（作業療法士）

この3年間の事業がどれだけ竹田市の教育保育施設に浸透し、継続していけるかが課題になると思います。幼保小でカリキュラムを作成し、それぞれの地区で交流会や連絡会を進めていき、振り返りや意見交換を充実させていくことが架け橋の第一歩になると思います。まだまだ幼保小の連携について理解や知識が浅いので、協議会でも研修や公開保育を実施し、子どもの学びや育ちについて勉強できる機会を設けていきたいです。（幼児教育施設）

国のモデル地域として令和4年度から始まった「架け橋期のカリキュラム」の開発は、南部幼稚園と南部小学校をモデル校園に設定したことが大きなポイントだったと思います。この南部幼小のモデルカリキュラムが先行事例となり、竹田市のみならず、大分県全体の「架け橋期のカリキュラム」の充実につながっています。とても感謝しています。これからも、架け橋期の教育の充実に向けて、継続・進化させていくことを願っています。（県幼児教育センター）

自治体が掲げる目指す子ども像を「幼児教育施設」と「小学校」が共有し、その実現に向けて架け橋期カリキュラムを作成することで、個々の学校園に留まらず、竹田市全体での取組として進めることができたと思います。今後は、モデル校園の実践を踏まえて作成された架け橋期カリキュラムを踏まえ、すべての校園でカリキュラムの作成・実施がなされることを期待します。そして、今回の事業をきっかけに、竹田市で架け橋期カリキュラムの作成、実施、改善のサイクルが「文化」として根付くことを願っています。（大学教授）

幼児期から小学校までの育ちや学びを連続性という視点から捉え直し、カリキュラムを作り上げたことが大きな成果と考えています。また、架け橋期に育てたい資質や能力を共有することで、保育活動や学校での学習活動のめざす方向性がより明確になったのではないかと思います。

本研究を通して小学校教職員の意識にも変容が見られ、幼児教育施設での遊びを通した学びを意識した指導が見られるようになりました。今後は、この取組が持続的に取り組まれるようにその体制づくりをしていきたいと考えています。（小学校）

これまで、竹田市の架け橋期のコーディネーターとして、モデル校園である南部幼小の皆さんと一緒に試行錯誤しながら「架け橋期のカリキュラム」作成に取り組んできました。作って終わりではなく、このカリキュラムを真ん中に置いて、園と小学校が協働して子どもたちの学びをつないでいくことが大切です。「しんけん遊ぶ子」から「しんけん学ぶ子」へ、「つなぐ・つながる」を合言葉に、持続可能な取組となることを願っています。（県幼児教育センター・架け橋期のコーディネーター）

幼保小架け橋プログラムの開発は、幼稚園・保育所等から小学校への円滑な接続を図るために、園と小学校が各々の役割を理解し連携してこどもの育成に関わるための、大切な道しるべになるものです。

全てのお子さんにとって成長の一助となるよう、今後も継続して見直しを図っていく取組が必要と考えます。これまで教育・保育関係者の多くがその必要性を漠然と感じながらも役割の違いから実現できなかった切れ目ない支援が、架け橋カリキュラムを機に大きく前進していくことを期待します。（市こども家庭センター）

2年間しているとわかってくるもんだな。そういう趣旨でそういう取組をしているんだ。保護者も理解できるんだなと思いました。しかし、そこまで来るのに、すごく時間が掛かります。課題としては、今後も子どもを取り巻く様々な家庭環境を考えながら保護者にきちんと伝えていく努力をすることだと思います。保護者にとってわかりやすい取組にする必要があります。（保護者）

竹田市架け橋期のカリキュラム開発会議 委員名簿 (R4～R6)

志賀 哲哉	竹田市教育長
加藤 陽一 吉岡 次郎	南部小学校 校長
麻生 良太	大分大学教育学部 教授
小林 里絵 眞田 貴弘	大分県教育庁幼児教育センター 課長補佐
武津 智美	大分県教育庁幼児教育センター スーパーバイザー 架け橋期のコーディネーター
阿部 優樹	保護者（しらゆり幼・南部小）
古澤 尊士	保護者（竹田幼・竹田小）
森 ひろみ 甲斐 美紀	荻げんきこども園 園長 なおいりこども園 園長
工藤 智子 伊井 雪江	都野保育所 所長 竹田保育所 所長
吉岡 洋子	しらゆり幼稚園 園長
猪股 良継	都野小学校 校長（前南部小学校教頭 元指導主事）
釘宮 公美	南部小学校 教諭
吉野由希子	南部幼稚園 主幹教諭
兒玉 敬祐	どんぐりの杜クリニック 作業療法士 ビジントレーナー
永井 知佳	府内大橋こどもクリニック 作業療法士
後藤いずみ	竹田市社会福祉課長
渡邊 早苗 渡邊 幸美	竹田市教育委員会 学校教育課長
森 淳史 小川 南	竹田市社会福祉課 係長 竹田市社会福祉課 主査
田辺 秀樹	竹田市教育委員会 学校教育課 指導主事

本資料及びその他の資料については、大分県教育庁幼児教育センターのHPに掲載されています。そちらもぜひご参照ください。



令和4年度～令和6年度
文部科学省委託
幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業に係る
竹田市「幼保小の円滑な接続」推進プログラム
(幼保小の架け橋プログラム)